



児童館まつりの来場者と一緒に20万人到達を祝った

### 保護者や子どもたちが集う児童館 地域に親しまれ、来場者20万人に到達

五十崎児童館の来館者数が20万人に到達し、11月26日の「五十崎児童館まつり」に合わせてセレモニーを行いました。20万人目となったのは、大野瞭介くん(天神小1年)と家族。小野植正久町長とくす玉を割って祝いました。大野君は「記念品をもらえてうれしい。イベントも楽しみ」と笑顔でした。同館は平成17年4月1日の開館以来、地域児童が自由に遊べる場として大切にされています。

### 夜空に輝くスバルとイルミネーション 今年はさらに楽しいきらめきの空間に

商工会青年部小田支部が行っている文化交流センタースバルのイルミネーションが11月19日から始まり、道行く人々の目を楽しませています。今回は「えひめ南予きずな博」の一環として行われ、光のブランコや、踏むと音がでるサウンドストーンなどが加わりました。支部長の中田貴博さんは「見て触れて楽しいイルミネーション。1月20日頃まで続けるので、ぜひ遊びにきて」と呼びかけました。



サウンドストーンで遊ぶ子どもたち



山田きよさん(左)が、上手に刷るアドバイス

### 大切な人に届けたい手作りの温もり 和紙の魅力を知る「ものづくり体験」

和紙文化に触れる「五十崎風博物館体験講座」が12月3・10・11の3日間、同館で行われました。各日の参加者は地元作家の浪江由唯さんや山田きよさんに教わりながら、手すきのはがき作りやシルクスクリーン版画による年賀状作りに挑戦。櫻田千登世さん=内子18第2=は「手作りの良さが感じられる、とっておきの年賀のはがきができる。誰に送ろうかワクワクしている」と笑顔でした。

### 内子の職人技で子どもたちを笑顔に—— 山本木工所が手作りのままと台を寄贈

株式会社山本木工所(代表取締役・山本将史さん)が11月28日に「木製ままと台」15台を内子町に寄贈し、保育所など8カ所に届けられました。各所の子どもたちは、コンロや蛇口など細部まで木でできたおもちゃに大喜び。早速、お店屋さんごっこなどを遊んでいました。山本さんは「飛び上がって喜ぶ園児もいた。内子の職人技で子どもたちの役に立ててうれしい」と喜びをかみしめていました。



内子保育園の園児たちも毎日楽しく遊んでいます



難しそうところは優しく手を差し伸べる

### 先生は地域のじいちゃん・ばあちゃん 小学生が昔ながらの「しめ飾り作り」に挑戦

大瀬中央老人会と小学生が交流する「しめ飾り作り」が12月15日、大瀬小学校で行われました。参加したのは大瀬小5・6年生19人と、老人会の10人。児童たちはしめ飾りの意味や作り方を聞きながら、優しく手ほどきを受けていました。5年生の大程太陽さんは「縄をなうのは難しかったけれど、一緒に作ってくれたので上手にできた。玄関に飾りたい」と声を弾ませていました。

### 宜野座村が4年ぶりに内子座の舞台に 各地の文化が光る「内子町伝統芸能まつり」

「第9回内子町伝統芸能まつり」(内子町伝統文化継承団体連絡会主催)が11月20日、内子座で開かれました。内子町から立川神楽保存会など3団体が出演。沖縄県からも「宜野座村漢那区村芝居実行委員会」が参加し、花笠が特徴的な「四つ竹」など6演目を披露しました。同区長の新里朝行さんは「独自の文化を大切に継承している姿を、姉妹町村の皆さんに見てもらえてうれしい」と話しました。



琉球芸能を象徴する衣装と舞踊



「すてきな門松が完成した」と喜ぶ皆さん

### 立派な門松でいい年を迎えよう 地域の交流を深める恒例の「門松づくり」

「内の子ふれあい会門松づくり」が12月17日、内子自治センターで行われました。管内の住民や高校生など約100人が参加し、1時間かけて立派な門松13対を仕上げました。今年は初めて葉牡丹を飾り、より見栄えが良くなったそうです。内子高校1年の松本麻姫さんは「貴重な経験を地域の人々と楽しめた」と笑顔でした。できた門松は管内の自治会館や学校などに飾られる予定です。

### 脱炭素の新しい地域づくりに熱視線 森林資源の活用を考えるシンポジウム

「脱炭素地域づくりシンポジウム」(NPO法人農都会議主催)が11月26日に共生館で開かれ、全国各地の先進事例が紹介されました。(株)日本総合研究所の藻谷浩介さんの進行によるパネルディスカッションもあり、森林資源や地域通貨を活用した資源・経済の循環と社会共生を討議。登壇した(有)内藤鋼業の内藤昌典社長は「資源を上手に循環して、電気代が無料の町を実現したい」と夢を語りました。



脱炭素地域づくりの先駆者が登壇したパネルディスカッション